

白川町立小・中学校再編計画 地区説明会 会議録

1. 日 時 令和4年9月10日（土）午後7時32分から午後8時43分
2. 会 場 蘇原ふれあいセンター
3. 参加者 別紙名簿のとおり 21名
町教育委員会：鈴木教育長、大岩課長、玉置学校再編専門監、鈴木
4. 資料等 別紙のとおり
5. 記 録

- (1) 開会あいさつ 大岩課長
- (2) 資料説明 鈴木教育長（19:33～20:02）
- (3) 質疑・意見等

○60代 男性A

・再編計画、教育の方針について特に意見はないが、白川中学校の校舎の老朽化が激しく、雨漏り等で困っている話を聞いた。新設する新校舎がどんな建物になるか気になるところである。通常の屋上付きの校舎は、防水機能が無くなると雨水排水からの水漏れが生じる可能性が高い。建設後のメンテナンスを考えると、例えば切妻屋根のような形状の校舎にすることや現状の体育館のように雨樋が外から見えない工夫がしてあるが故に、それによって雨漏りが生じていることもある。見た目よりも機能性やメンテナンス性を重視した方がよいのではないか。今後の設計段階において検討して欲しい。

○鈴木教育長

・ご意見のとおりで、白川中学校校舎の雨漏りについては大変苦勞をしている。見た目を良くするために雨樋が建物内に入っており、それが原因で校舎内で雨漏りが発生したという事例を沢山経験してきた。一番大事な点はそういう点だと認識しているので、これを今後の設計等に活かしていきたい。

○玉置学校再編専門監

・新しい校舎建設に向けた計画を資料にも掲載しているが、プロポーザルの実施は来年の春頃を予定している。今年度中にプロポーザル条件を検討し、来春に事業者を示していくことになる。新校舎については、機能性に加え、ランニングコスト等のメンテナンス性に配慮する点を条件に付していきたいと考えている。最新の校舎屋根は、ガルバリウムを張りメンテナンス性が高い建物になるような工夫がされた事例もあるので、参考にしながら進めたい。

○40代 男性A

・現在白川町の予算において義務教育に係る額はどれだけの規模となっているか。また、施設に費用が必要なことは分かるが、私の意見としては、これから生まれる子ども達のために町として積み立てを行い、将来白川町で暮らしてくれる場合には、その資金を取り崩して有効に活用する仕組みなどを考えていくことが必要だと思う。

教育に係る予算について分かれば教えてほしい。

○大岩教育課長

・令和4年度の白川町の一般会計予算は約61億円となっており、そのうち教育費は6億2千万円となり、全体の1割程度となっている。

○60代 男性B

・学校統合が進むと、廃校となる校舎が空いてくると思うが、その後の利用について現時点で計画や予定はあるのか。

○鈴木教育長

・現在、旧白川小学校と旧佐見小学校が閉校したので、廃校扱いとなっている。今後計画どおり進めば、白川小学校、蘇原小学校、黒川小学校が空き校舎となる予定である。比較的立地条件の良い場所に建てられた校舎であるが、現時点で廃校後の利用の予定は無い。大きな課題なので教育委員会だけでなく町全体として考えていく必要がある。なお、旧佐見小学校の活用に関しては、馬瀬中学校の跡地を企業が活用している事例について地元の有志による見学が行われた。こうした動きも含めて、町民の皆さんからもご提案をいただきたいと考えている。

○70代 男性A

・今後も少子化が進む中での新校舎の整備となるが、新校舎の規模についてお聞きしたい。

○鈴木教育長

・基本的な部分になるが、子どもの人数によってクラス数が決まり、それにより設備の状況も変わってくる。新校舎が完成する頃には、各学年1クラスの普通教室になるため、小・中学校で9クラスの規模を想定している。国は35人学級を進めているが、岐阜県は国より早く35人学級を取り入れており、限定的に2クラスという状況もあると思うが、年間で30人前後の出生状況を考慮すると、各学年1クラスの規模になることが予想できる。更に黒川小学校と佐見小学校は別で存続するため、新校舎において1学年35人を超えることは考えにくい。また、その他に特別支援学級として小・中あわせて4クラス程度が必要になるほ

か、理科室のように小・中別で必要な教室や調理室のように小・中が共通で使用できる教室などを考慮し、最終的に新校舎としての必要な規模を算出することになる。したがって現在の白川中学校や蘇原小学校の規模と同程度かそれよりも小さい規模になることを想定している。

○鈴木教育長

・今の説明の最後の部分は誤りであり訂正する。今の白川中学校が約3,600平方メートルに対し、新校舎は小学校分と中学校分の基準をもとに計算すると、約7,000平方メートルの規模になる。

○玉置学校再編専門監

・文科省の児童・生徒数に応じた必要面積を算出すると、先ほど教育長が訂正して説明した1学年1クラスの水準でも全体で7,000平方メートルの施設規模となる。授業によっては異学年による大人数で行う授業や、地元の方々と学び合う学習など、昔のように自分の教室のみで勉強するのではなく、校舎全体を広く、フルに使いながら学びを深めるといった考えなどから、そういった多目的スペースが設けられるようになり、国が考える標準的な児童・生徒1人あたりの校舎面積も広がった。むだなコストを抑えつつ、子ども達の豊かな学びのために必要な施設の規模を検討していきたい。

○70代 男性B

・学校統合に関しては、是非この計画を前向きに進めていただきたい。学校という物を作るのと同時に人をつくる、子ども達への投資という意味合いで優先順位は一番にして欲しいという思いである。それは私たちが今まで育てていただいた部分も含めて、この年になってはじめて有難さを感じている。私は70歳であるが、70年前にも今と同じことをしてくれたことに感謝している。少子高齢化が進み、待ったなしの現状、私としては最優先課題として進めていただきたい。

○鈴木教育長

・財政的な課題はあるが、この計画が何とか実現できるよう新校舎建設と同時に教育の中身を充実していきたいと考えている。今後ご理解をお願いしたい。

○40代 男性B

・今日の説明会は子育て世代、保護者の参加が少ない。地域説明会の開催は有難いが、保護者としてしっかり時間をもって意見を聴く機会を設けて欲しい。先ほどの教育長の説明で統合については案の段階との事なので、どこかで線引きする機会が必要だと思う。その前に保護

者への説明が必要だと思うので、ご配慮願いたい。また、新しい学校づくり検討委員会については、この組織が最上位となるのか。統合が案の段階だが、この会議をいつから始める予定にしているのか。また、部活動の地域移行の問題に関しては、もっと喫緊の案件だと思うが、どのような位置付けでこの委員会があるのかを説明して頂きたい。最後にプールは建設しない計画となっている。先ほどの廃校利用の問題とも関係してくるが、プールは建設の他に維持管理にも相当の費用が必要になると思われる。具体的にプールに関してはどう考えているのか。

○鈴木教育長

・まず保護者への説明会については、学校へ出向くことを予定しているが、十分な時間を確保することは難しいと思うので、若干の説明とあわせて資料配付になる可能性がある。

新しい学校づくり検討委員会については、早々に立ち上げていきたいと思う。これは専門的な会議であり、座長は岐阜大学の名誉教授にお願いしたいと考えている。特に一番早くに取り組みたいことはカリキュラムである。白川小学校と蘇原小学校が統合すると新しい学校になるので、どんな教育を行うか。また、白川中学校と黒川中学校が統合すれば中学校は1校となるので、校区の3小学校の教育課程を踏まえて中学校は何を進めるべきか。こうした課題は専門的な事項であるので、それに対応したメンバーで進めていきたい。そうした協議に基づき、必要な施設規模を検討するなど全てに関連性があるので、専門委員会として進めていきたい。なお、途中の検討状況については、地域や保護者に公表していく必要があると考えており、新しい案については積極的に公表することで、保護者や地域の皆さんの意見を聴いていきたいと考えている。部活動の地域移行については大変大きな問題である。国は幅広く大きな提言をしているが、実施については、土日の部活動の地域移行という部分的な指導をしている。私は、部活動を含めた白川町のスポーツ振興という考え方で検討する必要があると感じている。プールについては、今後建設するという例は少ないと思う。白川町の場合は、現在の白川小学校か蘇原小学校のプールが候補となる。プールの新設は維持管理とともに莫大な費用が必要になるが、授業として実際に使用するのは1ヶ月程度であり、夏休み期間を含めても2ヶ月程度のため学校教育の施設というよりは、社会体育的な発想で考えていきたい。

○鈴木教育長

・蘇原地区に関しては、来週の土曜日にも同様の説明会を開催するので、多くの参加をお願いしたい。課題は多いが、子ども達にとってより良い教育環境を作ることを目的に進めていきたいのでご理解願いたい。

(4) 閉会あいさつ 大岩課長 (20:43閉会)